

## ■ 野外活動のための安心・安全講座

## 本当にそれでいいのかな？

## ～計画書作成、下見実施、保険加入のあるある～

スカウト活動において、私たちは安全について特に注意を払い、計画書の作成や下見、保険加入など、さまざまな対策に努めています。しかしながら、慣れや忙しさから、その本質をつい忘れてしまうようなことはありませんか。

今号では、指導者に起こり得る「あるある」を事例に、自分の行動を振り返って考えてみましょう。

## 安全計画書あるある ～ビーバー隊の隊集会にて～

- 団委員長** 「入隊式後初めての集会だから、ちょっと見に来ました。活動にもってこいの場所ですが、いくつか危なそうなところがあるようですね。安全計画書はどうなっていたかな？ 隊長、ちょっと見せてもらえますか？」
- 隊長** 「あっ…… 車の中に置いたままです。副長、ちょっと見せてくれるかな」
- 副長** 「私はリーダー会議を欠席したので、計画書を持っていません」

✓ 安全計画書は「作ること」が目的になっていませんか？  
作ること「安心」していませんか？



計画書作成の際、プログラムを実施するうえで想定される危険やリスク（やけど、溺れる、熱中症等）を把握し、その対処法（事前準備、監視、救命具の準備、水分補給等）を検討します。そうすることで、計画書の作成過程で、プログラム上の安全対策を立てることができます。

また、計画書で情報を共有し、指導者会議や団会議等でチェックを重ねることで、より充実した安全対策ができます。

## 下見あるある ～カブ隊のリーダー集会にて～

- 隊長** 「8月の隊集会はキャンプですが、場所は〇〇山キャンプ場で決まりですね」
- D L 1** 「あのキャンプ場は、いい場所だと聞いています。さっそく下見ですね」
- D L 2** 「私、そこにはよく行くのですが、近くに美味しいパスタのお店があるんですよ」
- 副長** 「じゃあ、早めに出かけて、打ち合わせを兼ねてランチでもしましょうよ」
- 隊長** 「日程は来週の日曜日でどうでしょう？」
- D L 1** 「その日なら行けます」
- D L 2** 「私もその日は大丈夫です」

✓ 下見は「行くこと」が目的になっていませんか？



安全に活動するためには、原則として下見が必要です。活動場所を実際に確認することで、具体的な安全対策ができます。

裁判例では、下見は「危険発生に関する未知ないし不確定要素を把握して取り除く」ものとされています。下見をすることで具体的な危険を予測し、その危険を除去することが求められます。

## 保険あるある ～団会議でのボーイ隊長の報告にて～

- 隊長** 「今、お配りしたのが、ボーイ隊の夏キャンプの計画書です」
- 団委員長** 「スカウトがチャレンジしがいのある、冒険的なプログラムですね。ただ、この活動は事故も起こりやすそうだし、保険の対象にはならないのでは？」
- 隊長** 「『そなえよつねに共済』の手引きを見たら、適用されるみたいです」
- 団委員長** 「それなら安心ですね!!」

✓ 保険に入っていたら「安心」で終わっていませんか？



どんなによい活動でも、事故が起こってしまえば最悪の活動になってしまいます。指導者は、活動において第一にスカウトの安全を確保しなければなりません。

安全を確保するためには、日ごろから知識と技能、安全に向けた態度を持ち合わせておくことが大切です。

参考書籍 / 「安全ハンドブック ～ダイナミックなスカウティングのために～」(2021年4月発行)

「安全計画書」「下見」「保険」は、どれも安全を確保するうえで大切で欠かせませんが、上記のように、それぞれ「作成」「行くこと」「加入」自体が目的になってはいませんか？

スカウトが「安全」に、指導者が「安心」して活動するために、それぞれの本当の意味を再確認してみましょう。

「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会